



## チャールズ皇太子のオーガニック牧場

金丸弘美

食総合プロデューサー

チャールズ皇太子のオーガニックの農場に行ってきた。

イングランド西部グロスターシャー州のテルフルーという町をはさんで、七百五十ヘクタールもある広大な農地で、牧草地帯に牛や羊が優雅に草を食んでいた。

牧場の案内人はマネージャーのデビット・ウィルソンさん。すらりとした長身。ズボンに長いブーツ、洒落たジャケットにワイシャツ、ネクタイという姿。じつに格好いい。

イギリスには、農業を担当するマネージャーを専門職とする人が数多いという。これはイギリスの農業が、農地を手軽に手に入れることができるという事情にも関係しているようだ。

「お金があれば誰でも買える。F1レーサーやコンピュータ関係者で農地を買って、人を雇って農業をしている人もいます。だいたい一エーカー五百ポンドで買うことができる」と、ウィルソンさん。

広大な農場だが、運営は十二名。半分が事務所と農業の兼任である。

「ここで働く人のポイントは、有機農業と自然環境に関心が高い人を雇用しています」と言う。

農場そのものがスタートしたのは一九八一年。ウオールズの王族と土地を共同購入して始まった

という。

「王族が始めなければだれがやるのか、ということだった。チャールズ皇太子が環境保全活動に熱心なのです」とウィルソンさん。

オーガニックに完全になったのは一九九二年のことだという。

牧場には百八十頭の乳牛、百五十頭の肉用の牛、百二十五頭の羊、二百頭の繁殖用の羊、それと少しの豚がいるという。ほかに七種類のジャガイモ、ニンジン三種類、かぼちゃ、冬野菜や夏野菜などを二十ヘクタールで栽培している。牛や羊は広々とした農場で、ゆったりと飼われている。

「純血のフリーディングをするためと種の保存をするためにローカルなものを飼っています」という。

茶色っぽいスコットランド種のエイシャーが飼育されている。シリアルなものを与えることもあるが牛の餌は牧草が主体。冬場はサイレージ(牧草やトウモロコシなどを発酵させたもの)が使われる。冬場は十月に牛舎に入れて、春の四月になると放牧される。

一年間の乳量は三千から五千リットルというから、およそホルスタインの半分ほどである。優雅に飼育されるために、八年から九年生きるといいう。これはホルスタインの倍になる。

乳牛は、広大な敷地のなかでローテーションを

しながら廻す仕組みである。

「三年間は餌用の飼料の牧草を栽培する。四年間は大麦を栽培するという形で七年間がサイクルです。」

牧草ができれば放牧をする。そのあとに大麦を植えると、圃場ほくばを替えていくのである。広大な土地があればこそその農法ともいえるだろう。これは栄養や微生物などの偏りから土地を瘦せさせたり、また病気を防ぐためでもある。

肉牛は、ブリテッシュホワイトとアンガス（スコットランド）。

「この品種が肉質としてベストです。脂肪と肉のバランスがとてもいいのです。」

肉牛は牧草とサイレージのみで育てるという。二年から二年半で出荷される。

羊は四月に生まれて十月には出荷される。こちらも飼料は牧草のみだ。もともと最近はウールが化学繊維にとって替わられて羊毛の価格がさがっているのが悩みの種だという。

「チャールズ皇太子は時間があればいつもきます。すべての圃場をみてくまなくまわります。有機農

業は上流階級の人ほど関心が高いです」とデビッドさん。

農場の放牧と飼育方法を聞いて、効率を優先させない、かなりゆったりとした自然に則したのかというのがわかる。そもそも牧草主体で飼育する肉牛や乳牛など、日本国内では、まずないのでなからうか。

「この十年でオーガニックは大きく広がりました。〇・三%だったものが現在五%にもなりました。スーパーマーケットでも十五年前ほどから売り出して人気が高まっています」とも言う。

オーガニック商品を扱う店舗も近くにあった。「ダッチーオリジナル（英国王族の公領の意味）」と呼ばれる。店に入ると、こざいなしやれた、木をいかした作りで、薄い緑のカラーが基調になっている。オーガニックコットンの生地、ウールを使った服、オーガニックの紅茶やチョコレートなどが販売されている。

感心したのが、インテリアに使われているオブジェや棚だ。よくみると、農家にあった古い樽や棚、机などが、新たにペイントされて使われている。

壁に飾られたオブジェは、鋏や鎌などが巧みに組み合わさってインテリアになっていた。

店は財団による運営で、農業の支援を始め、国際赤十字、芸術などに使われるという。

また小学校にオーガニック農園を作り、そこから学校給食を作るという支援活動プログラムも援助をしていて百校を超えているという。こういった目に見える支援活動が多く共感を生んでいるのだろう。



牧場の乳牛エィシャー種



ダッチーオリジナルの店内